

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300442		
法人名	有限会社 碧		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	北海道川上郡標茶町旭2丁目4番地19号 (電話) 01548-5-5511		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年2月27日	評価確定日	平成22年3月19日

【情報提供票より】(平成21年8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	20,000~27,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		円	1か月 30,000円

(4) 利用者の概要(8月24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	標茶町立病院 氏橋歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

標茶駅近くの商業地区に位置するこのホームは、建物の1階がデイサービス、2階がグループホームになっており、デイサービスには昔ながらの友人、知人が利用しており、利用者同士が交流され、以前の関係が継続出来るように支援しています。地元の高校生の実習受け入れやボランティア、近所の幼稚園の行事への訪問や近所の子供たちの来訪による交流が図られています。地域の方々とは、ホーム行事の夏祭りに参加や協力を戴いたり、町内会行事への参加などで交流を図っています。「のんびりと本人らしく生き生きと地域の中で過ごせるような関係を持つ」というホーム独自の理念を作り上げ、職員の家族が入りたいと思えるようなホームを目指して取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価での改善課題は運営推進会議の定期的な開催でしたが、今年度は運営推進会議は実施されておりません。地域の方々にホームを理解して戴く機会や協力関係の構築、家族がホームに対する意見や不満等を外部者へ表せる場として、年6回を目安に実施される事を期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員が行い、管理者がまとめ作成し、職員の日々の業務やケアの振り返りの機会と捉えています。又、前回の外部評価での改善点は、職員全員で具体的な取り組みについて話し合い日々、ケアの質の向上に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 今年度の運営推進会議は実施されておりません。町内会会長・家族代表、役場の職員、民生委員、管理者、包括支援センター職員がメンバーになっています。今後は、地域の方々にホームを理解して戴く機会や協力、ご家族がホームに対する意見や不満等を外部者へ表せる場として運営推進会議の必要性を重視して、年6回を目安に実施される事を期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月「むつみ便り」を発行して行事や日常生活の様子の写真を掲載し報告しています。又、通信欄を設け、担当者から利用者の近況を報告しており、職員の異動についても紹介しています。来訪時には、積極的に面談する機会を作り、家族が馴染みやすい雰囲気作りを心掛けて意見や不満等を聞かせて戴くようにしています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の高校生の実習受け入れやボランティア、近所の幼稚園の行事への訪問や近所の子供たちの来訪による交流が図られています。又、地域の方々とは、町内会と話し合いの場を設け、ホーム行事の夏祭りに参加や協力を戴いたり、町内会行事への参加などで交流を図っています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、職員全員が話し合い「のんびりと本人らしく生き生きと地域の中で過ごせるような関係を持つ」というホーム独自の理念を作り上げ、職員の家族が入りたいと思えるようなホームを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスや研修報告会の際に、理念を振り返る機会を作り、理念に基づく支援が出来ているかを職員全員で話し合う場を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の高校生の実習受け入れやボランティア、近所の幼稚園の行事への訪問や近所の子供たちの来訪による交流が図られている。又、地域の方々とは、町内会と話し合いの場を設け、ホーム行事の夏祭りに参加や協力を戴いたり、町内会行事への参加などで交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が行い、管理者がまとめ作成し、職員の日々の業務やケアの振り返りの機会と捉えている。又、前回の外部評価での改善点は、職員全員で具体的な取り組みについて話し合い日々、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は実施されていません。町内会会長・家族代表、役場の職員、民生委員、管理者、包括支援センター職員がメンバーになっている。		今後は、地域の方々にホームを理解して戴く機会や協力関係の構築、家族がホームに対する意見や不満等を外部者へ表せる場として運営推進会議の必要性を重視して、年6回を目安に実施される事を期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは必要に応じて気軽に連絡や相談ができる関係を作っている。また、不定期ではあるが包括ケア会議へ出席し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「むつみ便り」を発行して行事や日常生活の様子を掲載し報告している。又、通信欄を設け、担当者から利用者の近況を報告しており、職員の異動についても紹介している。		家族の来訪時に本人の健康状態や生活状況についても報告されている。金銭の出納も毎月、請求書送付時に書面を同封し報告している。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には、積極的に面談する機会を作り、家族が馴染みやすい雰囲気作りを心掛けて意見や不満等を聞かせて戴くようにしている。又、今後は家族会を立ち上げ、交流会を通じて、運営に協力戴けるような関係作りが必要と考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は、離職を防ぐ取り組みとして、仕事上の悩みや相談を受けたり、勤務体制を柔軟に対応している。又、代わる場合はホーム内の穏やかな雰囲気が変わらないように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、管理者は正職員が最低年1～2回は外部の研修会に参加出来るように取り組んでおり、希望者にはグループホーム協議会や他の研修会や勉強会に参加できるよう勤務調整をしている。又、研修会に参加した職員は参加できなかった職員のために、研修報告会も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の市町のグループホームとの交流会や勉強会を開催し相互交流を図っている。又、グループホーム協議会主催の実務研修や交換研修などで積極的に交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り見学・来訪して戴き、ご本人が納得した上で利用できるように、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日と一緒に生活する中で利用者の昔の話や生き方などを学び、昔ながらの習慣や知恵を利用者から教えて貰いながら、畑作業での種蒔きや収穫時期、調理の下拵えや季節料理やおはぎの作り方などを教わり、本人と共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を導入しご家族に協力を頂き、思いや意向を把握し、本人本位の生活が送れるように支援している。又、職員は表情や会話の中から食べたい物、行きたい場所などを聴取し実現している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに介護計画が立てられており、初回面談時に、本人、ご家族から希望、意向を聴取してケアプランに反映させている。又、ケアカンファレンスにて職員全員で話し合い、それぞれの意見やアイデアをケアプランに反映させるように取り組んでおり、達成度の評価も詳細に行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、生活の記録からニーズを引き出し具体的な方法を支援経過記録に職員全員が記入し、それを基に本人、ご家族、必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成しており、状態の変化や見直しの必要があれば随時、カンファレンスを行い見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に応じて通院の支援や本人の希望や要望がある場合、買い物の同行、散歩、気晴らしのドライブ、理美容室への送迎等、なるべく本人の希望が実現できるように支援している。又、隣接したデイサービスへの参加も柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	町の病院は利用者のかかりつけ医として、気軽に相談できる関係が築かれている。又、介護支援専門員は看護職も兼務しており、利用者の体調や生活の変化を十分に把握し、変化があれば日常的に本人やご家族と相談しながら健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームで対応できる限界を見極め職員全員で対応を検討しており、できるだけ早い段階から本人やご家族ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い急変時の対応や次の段階の転居先への支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけや介助を心掛け、プライバシーや羞恥心にも十分に配慮して支援している。又、記録等の個人情報の取り扱いについても、十分に注意して取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や思いを尊重し、買い物や調理や食事の準備、後片付け、レクリエーションの参加、入浴など本人の希望やペースに沿って支援している。又、利用者が、その日をどのように過ごしたいかを把握し、職員間で共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、買い物や料理の下ごしらえ、食事の準備など一緒に行っている。又、季節や天気に合わせて、野外での焼き肉やお弁当を持参して近郊の観光地へのドライブ、時には出前を取るなどして食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週2回を基本として希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。又、時には利用者同士の入浴や近郊の温泉や足湯に出かけるなど入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間を通じてクリスマスやお雛祭り等の行事を積極的に行い、暖かい時期にはお花見やお弁当を持参してのドライブなど楽しみごとや気晴らしの支援をしている。又、日常生活の中で一人ひとりの力を活かした役割事への支援やレクリエーションにも取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの河川敷公園への散歩や外気浴や買い物の同行など、その日の体調や希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。又、夏にはお弁当を持参して町営の多和平牧場や川湯の足湯、屈斜路湖など近郊の観光地に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を設置しており、火災等の緊急時対応マニュアルや緊急連絡網を作成し、消防署の立会の下、年に2回利用者とともに夜間を想定した避難訓練を実施している。		今後は、日頃より地域の人々の協力を得られるように運営推進会議を実施して地域との連携強化が図られることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録されており、水分摂取量については、個々の状態を踏まえ、最低1000mlを目安として支援している。又、栄養士の資格を持っている介護支援専門員が栄養バランスや大まかなカロリーを把握し、栄養に偏りがないように配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間や廊下は明るく解放感があり、壁には季節が感じられるような飾りや行事やお誕生会の写真が掲示されている。窓際には鉢物が置かれており、季節感が感じられる。又、いつでも自由に飲めるようにポットにお茶とお水が用意されるなど生活感が感じられ居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や筆筒、椅子など使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる空間となっている。又、家族と一緒に写真や趣味の作品等を飾り、一人ひとりの思いが伝わり居心地よく過ごせるような空間になっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。